

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和元年9月号



【海草振興局】9/25 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】
～温州みかん隔年結果対策&草生栽培現地研修会を開催～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



I 海草振興局	1 - 4
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～温州みかん隔年結果対策&草生栽培現地研修会を開催～	
2. 農業者向けの消費税軽減税率制度説明会を開催	
3. 環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催	
4. 和海地方女性農業者交流会を開催（JAながみね下津女性農業塾と合同開催）	
5. 和歌山市内水田のトビイロウンカの発生状況を調査	
6. 新ショウガ生産者、種ショウガ生産者交流会を開催	
II 那賀振興局	5 - 6
1. いちごの花芽検鏡を実施しました	
2. 那賀地方有機農業推進協議会の講演会が開催されました	
3. 技術研修会を開催 ～紀の川市環境保全型農業グループ～	
III 伊都振興局	7 - 8
1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～高接ぎ「紀州てまり」の肥大調査～	
2. 橋本市生活研究グループ連絡協議会が県外視察を実施	
IV 有田振興局	9 - 12
1. アグリビギナー等技術経営研修（第4回）を開催	
2. 有田農業女子プロジェクト第2回研修会を開催	
3. 有田地方農業士協議会・4Hクラブ連絡協議会が合同研修会を開催	
4. 有田ネット21が研修会を開催	
5. 有田地方4Hクラブ連絡協議会が第2回勉強会を開催	

V 日高振興局

13-15

1. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～「露茜斑入果病（仮称）」のまん延防止～

2. 重点プロジェクト【ウメ・ミカン産地のスマート農業実証】

～スマート農機実演会が大盛況～

3. みなべ町農業士会が先進地研修及び有田地方農業士会との情報交換・交流会を開催

4. 印南町農業士らによる稲作体験を実施

VI 西牟婁振興局

16-19

1. 第27回SUN・燦紀南農業者の集いを開催

2. 西牟婁地方農業士会女性部会OB交流会を開催

3. 田辺生活研究グループ連絡協議会が先進地研修を開催

4. スターチスの植付けが始まる

～固化培地苗と常温育苗苗の実証圃を設置～

VII 東牟婁振興局

20-21

1. 三津ノ地域活性化協議会が新規品目のブロッコリー、タカナを播種

2. 新宮周辺地場産青果物対策協議会がナスの収穫体験を実施

VIII 農林大学校 就農支援センター

22-23

1. 果樹と野菜の接ぎ木研修を実施

2. 技術修得研修（第1班）が修了

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～温州みかん隔年結果対策&草生栽培現地研修会を開催～

9月25日、魅力ある園地へのチャレンジ推進活動として、下津町農業士会（森岡利行会長）と農業水産振興課主催で「温州みかん隔年結果対策&草生栽培現地研修会」が海南市下津町内のカンキツ園地で和海地方新規就農者研修（果樹コース）も兼ねて開催した。

研修会には下津町農業士会会員や海草管内の就農5年目までの農業者、関係機関職員など30名の出席があった。はじめに下津町農業士会会員の園地において指導農業士の橋詰孝氏から隔年結果対策に繋がる剪定（予備枝の設定）の実演があり、「果梗枝が先端になるように心掛け、垂れ下がり枝や古い枝を間引き、水平な流れのよい予備枝をつくるように」と説明が行われた。続いてヒメイワダレソウによる草生栽培を実践している指導農業士の岩本治氏の園地において、雑草対策として、「ヒメイワダレソウを導入することで除草作業がほとんどなくなり大幅な省力化に繋がり、夏場の乾燥にも強いので果実肥大を重要視する中晩柑類から試験的に導入してはどうか」と説明が行われた。最後に、橋詰氏の温州みかん連年結果実践園を見学し、日頃の栽培管理方法等について説明を受けた。

質疑応答の時間には参加者から多くの質問が出されるなど関心の高さがうかがえ、大変有意義な研修会となった。

当課では、今回のような下津みかん産地の維持発展に繋がる取組を農業士会やJA等が定期的に行うことができるよう積極的に支援していきたいと考えている。



隔年結果対策研修



草生栽培研修

2. 農業者向けの消費税軽減税率制度説明会を開催

10月1日から消費税及び地方消費税の税率が8%から10%に引き上げられることに伴い、飲食料品等に対する軽減税率制度が実施され、農業者の経営にも少なからず影響があることが予想される。そのことから、9月17日、下津町農業士会（森岡利行会長）主催の「農業者向けの消費税軽減税率制度説明会」がJANAながみねしもつ営農生活センターで開催された。

説明会には、農業士会員や関係機関職員など約 40 名の出席があり、大阪国税局課税第二部消費税課の福島航一氏から、制度の概要や農業経営で大きな影響がある委託販売手数料、令和 5 年（2023 年）10 月から始まる予定のインボイス制度（適格請求書等保存方式）について詳細に説明が行われた。

出席者からは、確定申告時の注意点やインボイス制度開始までのスケジュール等について多くの質問が出され、新制度の内容について理解を深めることができた。



説明会

3. 環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催

県では、環境保全型農業において、先進的な栽培手法や創意工夫をこらした取組をしている方の園地を「エコ農業実践モデル園」に設定している。9 月 4 日、紀美野町動木の温州みかんエコ農業実証モデル園において、現地研修会を開催したところ、県内生産者および J A 関係者約 20 名が参加した。

温州みかん等で農薬を減らした栽培を実践している、地域農業士の舟底秀弥氏園地において栽培方法や販路についての説明を受けた後、ドローンの実践飛行を見学した。その後、紀美野町役場の会議室において、果樹試験場の武田副主査研究員より柑橘の病害虫発生と防除について説明がなされた。参加者からは今後の営農や経営に活かすべく、様々な質問や意見が出された。



エコ農業実践モデル園での現地研修会



情報交換

4. 和海地方女性農業者交流会を開催（J Aながみね下津女性農業塾と合同開催）

9 月 12 日、J Aながみね下津女性農業塾と合同で和海地方女性農業者交流会をみなべ町で実施し、18 名の参加があった。以前の参加者アンケートから女性農業者の興味のある分

野は『6次産業化』であることが分かっていたため、今回はみなべ町の指導農業士 二葉美智子氏を訪問し、ウメの加工品開発等の取組について研修を行った。

うめ振興館において、講師の二葉氏から取組内容の説明を受けたあと、実際に梅染体験を行った。その後、昼食をとりながら意見交換会を行った。自ら積極的に活動している二葉氏の話は、参加者にとって大きな刺激になったようだった。また、梅染体験についても、「絞り染めが初めての体験だったので楽しかった」という感想や「みかんでも同様な染物ができないか」といった質問が出された。今回の交流会は他団体との合同開催で、参加者の年齢にも幅があったが、普段交流の少ない年代と交流できて良かったという声が聞かれた。

次回は2月に開催を予定しており、農業水産振興課では女性農業者の活動支援に力を入れていく。女性農業者交流会や新規就農者研修会の情報は海草振興局農林水産振興部のホームページで随時公開している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/nourin.html>)



取組み内容の紹介



できあがった梅染のハンカチ

5. 和歌山市内水田のトビイロウンカの発生状況を調査

9月25日、和歌山市内の水稻晩生品種栽培圃場においてトビイロウンカの発生状況をJAわかやま、和歌山県農作物病虫害防除所、JAグループ和歌山農業振興センター、農業水産振興課で調査した。

トビイロウンカは水稻株元を吸汁加害する害虫で、被害株は黄白色に枯死する。県中部で注意報が出されていたが、9月に入り、和歌山市内で水稻の株がまとめて枯れる「坪枯れ」が散見されるようになった。このため、小倉地区、平尾地区、直川地区の3か所3地点を調査したところ、多い場所では1株につき100匹以上の幼虫が確認された。

トビイロウンカによる坪枯れが見られる水田は、時間が経過するとともに枯死面積が広がることが予想される。1週間以内に稲刈り予定の水田は前倒しして稲刈りをする事、すぐに稲刈りをできない水田は、収穫前日数を確認して農薬を株元までかかるよう早めの薬剤散布を指導内容とすることを確認した。今後、関係機関と協力して次年度の防除暦の検討などを進めていく。



トビイロウンカによる坪枯れが発生した水田



成虫・幼虫ともに株元に生息する

6. 新ショウガ生産者、種ショウガ生産者交流会を開催

9月20日、和歌山市種生姜生産促進協議会（JAわかやま、和歌山市、県農、和歌山県）は、囲いショウガ生産者、種ショウガ生産者とJAわかやま新生姜生産販売連絡協議会役員との交流会を開催した。出席者は関係機関担当者など含めて13名であった。

和歌山市種生姜生産促進協議会では、現在、県外産に依存している新ショウガ用の種ショウガを、一部でも和歌山市内で自給できる体制を目指しており、種ショウガの生産振興を進めている。

この日は、JAわかやま西部営農センターで今年の実績結果について意見交換し、現地検討として和歌山市山口地区、下和佐地区、山東地区の種ショウガ生産圃場において現在の状況を確認した。

種ショウガ生産圃場では、種ショウガ生産者、新ショウガ生産者が「株間はどれくらいで栽培しているのか」、「今年もよい種ショウガが出来るのを期待している」など、情報・意見交換した。



意見交換会



山東地区での現地検討

Ⅱ 那賀振興局

1. いちごの花芽検鏡を実施しました

J A紀の里打田支所ふるさとセンターにおいて、那賀地方いちご生産組合連合会（西川圭亮会長）主催でいちごの花芽検鏡を実施した。（実施日：8月30日、9月6日、10日、13日、17日、20日、24日）

会員が持ち込んだイチゴ苗 281 株について、J A紀の里営農指導員並びに農業水産振興課職員で、顕微鏡を用いて花芽が分化しているかどうかを確認し、適期定植等を助言した。

いちごの花芽検鏡は、顕微鏡で花芽分化を確認する作業で、定植時期の目安を知ることができる。とくに県オリジナル品種「まりひめ」は、花芽が未分化の状態ですと定植をした場合、開花がかなり遅れる傾向があるため、花芽分化を確認してから定植する必要がある。



イチゴ苗「まりひめ」の定植

2. 那賀地方有機農業推進協議会の講演会が開催されました

那賀地方有機農業推進協議会（関弘和会長）は9月4日、那賀振興局大会議室において有機農業を広めることを目的に講演会を開催し、管内外から42名が参加した。

愛媛県の社会福祉法人でパーソナルアシスタント青空 代表取締役 佐伯康人氏を講師に招き、有機農業で農福連携に取り組んでいる事例について講演があった。

佐伯氏は、自らも障害児の3つ子をもつ父親としての苦悩を感じ、同法人を立ち上げ、自宅介護、重度訪問介護等デイサービス就労継続支援B型事業を展開している。

また、奇跡のリンゴで知られている木村秋則氏に感銘を受け、無農薬・無化学肥料の自然栽培の普及に努めてきた。

現在では、「農福連携自然栽培パーティ」を結成し、全国80箇所以上の会員施設に栽培指導を通じて「自然栽培+障害者」による食の安全、地域のつながり等に努めている。

参加者からは、「自然栽培に適した米の品種は？」、「ハッサクを無肥料で栽培しているが、雑草への対応はどうしたらよいか。」など、多数の質問をするなど熱心に聞き入っていた。

同協議会は有機農業を消費者や生産者に広く知ってもらうため、今後も研修会等を開催する予定である。



講演会

3. 技術研修会を開催 ～紀の川市環境保全型農業グループ～

紀の川市環境保全型農業グループ（畑敏之会長）は9月27日、「植物ホルモンを活かした農業」と題して、（株）グリーンガラス代表取締役 道法正徳 氏を招き、技術研修会を開催した。関係者を含め14名の参加があった。

道法氏は、広島県内の農協で長年、営農指導員として施肥でなく、せん定によって植物ホルモンの流れをコントロールする技術の指導につとめられ、現在では「無肥料・無農薬栽培・自然栽培」の農法を確立している。

道法氏からは、植物の生長における呼吸と光合成の働き、そして植物ホルモンとの密接な関係、さらには植物体内における水分の移動には月の満ち欠けが作用していることなどについての説明があった。

参加者からは、「ブドウやスイカを広げずに、束ねている写真を拝見したが密植栽培をしているのか」など熱心に質問があった。

農業水産振興課では、会員らの経営や栽培の参考となる研修会を今後も開催していく予定である。



研修会

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～高接ぎ「紀州てまり」の肥大調査～

農業水産振興課ではかき・もも研究所において育成された甘柿の新品種「紀州てまり」（品種登録：平成31年4月23日）の普及促進を図っている。今年度は、現地適応性を調べるために橋本市（2カ所）、かつらぎ町（1カ所）、九度山町（2カ所）の5カ所の柿園において、「紀州てまり」を高接ぎして生育調査を行っており、7月4日以降約15日間隔で果実品質の調査を実施している。

果実の肥大は園地の標高などで異なり、9月19日時点での横径は最も大きい園地では87.1cm、最も小さい園地では78.4cmであった。

今後、収穫日や果実品質等の調査を実施していくとともに、農家を対象に試食検討会を開催し、品種特性や現地適応性について情報発信していく。



「紀州てまり」の果実



果実品質調査

2. 橋本市生活研究グループ連絡協議会が県外視察を実施

橋本市生活研究グループ連絡協議会（小林由美子会長）は、みそづくりや郷土料理体験など地域での食育活動に取り組んでいる。協議会では自己研鑽のため、9月5日に兵庫県佐用町にある「味わいの里三日月（農事組合法人三日月特産加工組合）」への先進地視察を実施した。同組合長理事の岡田真希子氏から加工品の開発や販売などの取り組みのきっかけや、地元の特産品である佐用もち大豆を使ったみそづくり、そば打ち体験、飲食店や直売所運営について説明をうけた。

同組合では、割り箸の先に具の入った丸い味噌がついた即席みそ汁『おいしい味噌棒主（みそぼうず）』など面白い商品も開発、販売しており、会員は興味深げに聞き入っていた。

また、お互いの活動を紹介しながら、継続して取組んでいくために必要なこと、苦労したこと、商品の単価設定など活発な意見交換を行った。

その後、同組合の加工品や地元農産物を使ったお弁当を説明を受けながらいただいた。農業水産振興課では、引き続き同グループの活動や運営について支援していく。



岡田組合長理事のお話



昼食をとりながら情報交換

IV 有田振興局

1. アグリビギナー等技術経営研修（第4回）を開催

就農して間もない農業者に対し、知識や技術の習得を支援することにより、担い手としての定着促進を目的とするアグリビギナー等技術経営研修を9月2日に開催した。

新規就農者5名および有田地方農業士協議会4名参加のもと、果樹試験場において農業機械の安全使用、および意見交換を行った。

まず、ほ場や作業室にて、県農業大学校（現 農林大学校）で研修関係の業務に長年携わられた川原泰高氏より、チェーンソーの構造やメンテナンス、使用上の注意点について、実演を交えながら説明を受けた。

終了後、グループに別れ、農業士が進行役となり、意見交換会を実施した。新規就農者からは、農業を始めたきっかけ、今困っていること、今後取り組みたいこと等について、農業士からは、経験を踏まえた助言や今後期待すること等について話をする形で進んだ。

農業機械については、刃の研ぎ方等のメンテナンスや伐採のコツ、作業時に身につける保護具等に関する質問が多くあった。

また、意見交換会では、予定の時間を過ぎても会話が途切れることなく、活発に意見交換が行われ、経験豊富な人のアドバイスがとても参考になったという意見が多く寄せられた。



樹の伐採を実演



参加者も使い方を体験



意見交換の進め方を説明



活発に意見交換を実施

2. 有田農業女子プロジェクト第2回研修会を開催

9月11日、有田振興局において、「令和元年度有田農業女子プロジェクト第2回研修会」を開催した。

農業女子プロジェクトは、普段あまり交わりのない農業女子同士が交流することで、知合いの輪を広げるとともに、農業についての知識や技術を身につけるきっかけをつくることを目的に実施している。

今回は、(一社)和歌山県農業会議が実施する「農業経営基礎講座」に14名が参加した。農業経営アドバイザーの宮尾文也氏から「経営分析と記帳と改善計画策定について」と題して講演があった後、先輩就農者による取組発表を聞き、グループワークを行った。難しい内容ではあったが、経営を把握することの重要性を学ぶことが出来た(本講座についてはアグリビギナー研修会・JA農業塾と合同開催)。

また、研修会の前に、ランチ交流会を開催し、農業経営や栽培品目、農作業の悩みなどについて意見交換会を行った。参加者からは、同世代の女性農業者や農業士の方と話すことができ、参考になったとの意見が寄せられた。

農業水産振興課では、引き続き女性農業者の活動支援を行うこととし、次回は2月に研修会を開催する予定である。



経営基礎講座研修



2班に分かれての意見交換会

3. 有田地方農業士協議会・4Hクラブ連絡協議会が合同研修会を開催

9月12日、令和元年度有田地方農業士協議会(森田耕司会長)・有田地方4Hクラブ連絡協議会(成川僚会長)主催の合同研修会が開催され、各市町から農業士・4Hクラブ員、関係者併せて55名が出席した。

研修会は、毎年管内の市町持ち回りで実施しており、今回は管内の農業生産や農産加工、市町の取組など地域の優良事例を学ぶとともに、会員同士の交流を図ることを目的に、有田川町金屋地区の2園地と有田川町営で全国からも注目されている小水力発電の取組について研修を行った。

見学園地は、施肥を工夫し、連年多収を実現している有田川町丹生の亀井勇希氏の温州みかん園と山椒やシイタケ、獅子ゆず(観賞用)など、温州みかん以外の品目で農業経営を行

っている有田川町宇井苔の林敏紀氏園地で、それぞれの園主から、経営の概要と工夫している点などの説明ののち、熱心な質疑が行われた。有田川町営二川小水力発電所は、町職員の発案で2016年発電開始。二川ダムから放流する河川維持放流水を活かして発電し、売電収入を得る仕組みについて町職員から説明をうけた。

農業水産振興課では、今後も農業士や4Hクラブ員の各種研修会などによる情報収集や技術研鑽の取組を支援していく。



有田川町4Hクラブ員が管理する
連年多収園地の見学



有田川町職員が
町営二川小水力発電所の概要説明

4. 有田ネット21が研修会を開催

9月17日、有田ネット21（山本源蔵会長）の研修会が開催され、15名の会員が出席した。有田ネット21は「パソコンを農具に」を合い言葉に平成8年に結成され、農業者らが主体的に活動しており、現在も年間2～3回研修会を開催している。

今回は、下津町農業士会の指導農業士 橋詰孝氏の園地を視察し「温州みかんの多収量栽培管理について」講義を受けた。

橋詰氏は、愛知県の農業者から技術を継承し、8t/反の収量をあげている園地もある。研修では、実際に樹々を見ながら、品種ごとの肥料の種類や施用時期、剪定方法など、収量を向上させる管理方法について説明を受けた。また、栽培方法以外にも、季節労働者の確保のために工夫されていることなど、多岐にわたり情報交換を行った。

会員らは、熱心に聞き入り、質問も多く出され、大変有意義な研修となった。



橋詰氏から説明を受ける



橋詰氏園地

5. 有田地方4Hクラブ連絡協議会が第2回勉強会を開催

9月25日、有田振興局において、有田地方4Hクラブ連絡協議会（成川僚会長）が、クラブ員の交流と栽培技術の研鑽を目的として、「温州みかんの秋肥」をテーマとした勉強会を開催した。当日は、各市町からクラブ員20名が出席した。

始めに、果樹試験場 中谷主査研究員から「ミカンの秋肥を上手に効かすポイント」と題して、秋肥が花芽分化や萌芽に必要であることや、いつまでに施用する必要があるかについて試験データをもとに説明を受けた。

その後、地元で肥料・農薬を取り扱っている山源商店の山本源蔵氏から、ラベル表記などをもとに肥料を選ぶポイントについて、指導を受けた。

クラブ員からは、「表年と裏年で肥料を変えた方がいいのか」、「肥料の値段の違いは何か」など多くの質問が寄せられた。

また、講演後クラブ員は、自園地で使用している肥料や今年の作況等について、熱心に情報交換していた。農業水産振興課では、このような栽培技術向上を目的とした4Hクラブ員独自の勉強会開催の取組を今後も支援していく。



勉強会

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～「露茜斑入果病（仮称）」のまん延防止～

農業水産振興課では、新病害虫の侵入警戒とまん延防止、梅干し生産に特化した農業経営を改善するため、青梅の省力化栽培技術や「露茜」、^{すいこう}「翠香」といった特徴ある品種の導入推進を普及指導計画の重点プロジェクトとして取り組んでいる。

「露茜」における斑入果病の感染状況を把握するため、昨年からうめ研究所、JA紀州、みなべ町等と連携しウイロイド検定を実施している。昨年は「露茜」の苗木1,615検体を調査し、そのうち6検体が陽性（陽性率0.37%）であった。

本年は高接ぎ樹を検定するため、うめ研究所で9月11日、18日にサンプル（325検体）の調製作業を実施した。今後、うめ研究所において順次検定が行われる予定である。

なお、本病は汁液によって伝染するため、「露茜」のせん定講習会時にはハサミやのこぎり等の消毒方法（1樹のせん定が終わるごとに、第三リン酸ナトリウム（商品名：コシトイン、ビストロンなど）を5%に希釈のうえ、ハンドスプレーを用いて十分に噴霧し拭き取る）も併せて指導し、ウイロイドのまん延防止を図っていく。



ウイロイド検定用サンプルの調製

2. 重点プロジェクト【ウメ・ミカン産地のスマート農業実証】

～スマート農機実演会が大盛況～

9月25日、県並びに関係機関で組織する「和歌山県スマート果樹栽培実証コンソーシアム」主催によるスマート農機実演会がみなべ町のうめパイロット園地で開催され、農業者並びに関係者121人が参加した。当日の実演農機は、リモコン式自走草刈機、リモコン式自走運搬車、クラウド型自動かん水装置、肥料散布機、農薬散布用ドローン（水散布によるデモフライト）の5機種で、うめ研究所や果樹試験場担当者から説明と実演がなされた。参加した農業者からは、「省力化を図られそうではあるが、導入コストが高すぎる」、「機械はまだ実用的ではないが、開発が進めば、より高性能で価格の安い機械が出てくるだろう」、「クラウド型のシステムを使う場合、電波が必要になるが電波が届かない圃場も多い」などの声が聞かれ、スマート農業への関心の高さがうかがわれた。これらの意見は、コンソーシアムから農機メーカーに伝えられ、今後の改善に活用される。



概要説明



リモコン式自走草刈機



リモコン式自走運搬車



クラウド型自動かん水装置



肥料散布機



農薬散布用ドローン

3. みなべ町農業士会が先進地研修及び有田地方農業士会との 情報交換・交流会を開催

9月20日、みなべ町農業士会（松川哲朗会長）は、先進地研修及び有田地方農業士会（森田耕司会長）との情報交換・交流会を開催し、会員等17名が参加した。

先進地研修では、有田市宮原町の（株）早和果樹園を訪れ、秋竹新吾代表取締役会長から「農業の6次産業化による地域活性化への挑戦！」と題して、講演をいただいた。

会員らは、早和果樹園が6次産業化に取り組み、次々と新商品を開発して事業を拡大していることに大変感心していた。

次に、有田振興局へ移動し、有田地方農業士会12名と農業経営、労働力問題等について情報交換を行った。

みなべ町、有田地方の農業士が2つのグループに分かれ、それぞれが昨年実施した「農

業労働力に関するアンケート調査」の結果を基に情報交換を行った。

農家の高齢化や、農作物の鳥獣被害、耕作放棄地の増加、収穫期の労働力不足など多くの問題が挙げられ、両地域で共通した課題が多いことが分かった。

参加者からは今後も、機会があれば情報交換を続けるとともに、互いに可能なかぎり協力していきたいという声が聞かれた。



(株) 早和果樹園での先進地研修



有田地方農業士会との情報交換会

4. 印南町農業士らによる稲作体験を実施

印南町農業士会（村上智一会長）は、食育活動の一環として、毎年地域の農家らと協力して印南町立稲原小学校で稲作体験を実施している。

本年度も、3年生から6年生までの53名を対象に、5月に播種作業を、6月に田植えを終え、9月25日に稲刈りを行った。

生徒らは会員から鎌の使い方や脱穀の方法について説明を受けた後、稲を鎌で刈り取った。

初めて稲刈りを体験する3年生は、「なかなか切れない」と難しそうにしていたが、慣れてくると力強い手つきで次々と稲を刈り取っていた。また、コンバインでの刈り取りの実演もあり、生徒らはコンバインの刈り取りスピードに驚いていた。今後は1月に餅つき大会を行い、できたお餅を全校で味わう予定である。印南町農業士会では、引き続き農作業を通じた食育を推進することにしており、農業水産振興課も支援していく。



刈取り方法を説明する農業士



稲刈り

VI 西牟婁振興局

1. 第 27 回 SUN・燦紀南農業者の集いを開催

西牟婁地方では、農業士会、生活研究グループ、4Hクラブの3団体が中心となり、地域の課題や農業農村の今後について検討・交流する場として、本研修会を開催している。

27回目となる今回は、9月4日に紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、「現在の農漁村を考える」をテーマに、和歌山大学地域活性化総合センターの岸上光克教授を講師に迎え、食料・農業・農漁村を取り巻く現状と地域資源を活かした地域づくりについて研修を行い、3団体会員と関係者含め約100名が出席した。

岸上教授の講演では、自身の関係してきた地域づくり活動事例等について、時折笑いも交えながらお話しいただいた。同教授は、若者を中心に「農」に対するイメージや要望は多様化しており、地域の方向性を考える際は、農漁業従事者以外の住民も一緒になって意見を出し合う地域づくりが必要だとの私見を述べられた。

その他、農業水産振興課から「農地中間管理事業」と「スマート農業技術導入」について話題提供を行った。

当課では、今後もこういった農業者団体が主体となった研修会活動を支援していく。



岸上教授による講演会



スマート農業技術導入について

2. 西牟婁地方農業士会女性部会OB交流会を開催

9月11日、田辺市内で西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（橋坂佐都美部会長、会員13名）主催による西牟婁地方女性農業士OB会（津軽貞子代表、会員21名）との交流会を開催し、20名が出席した。

交流会では、橋坂部会長から大阪での梅消費PR活動や先進地視察研修等、女性部会の活動内容の紹介があり、その後新規OB及び女性部会員の自己紹介があった。

また、OB会と共同で活動出来る内容等について意見交換を行った。

OB会員からは「今後も年1回はこのような交流会を開催して意見交換を行い、女性部会の活動を盛り上げていけるような取り組みをしたい」、「以前は宿泊して梅の消費PRを兼ねた先進地視察研修を行った。大阪だけでなく、東京で梅の消費PR等を開催してはどう

か」等の意見が出され、活発な意見交換となった。

続いて、農業水産振興課から今年度の農業士認定事業について、地域農業士の解除年齢が60才から65才に引き上げられたことを説明した。

女性部会では、今回出された意見をもとに、OB会と連携した活動を積極的に行っていく予定である。



橋坂部会長から活動内容の紹介



集合写真

3. 田辺生活研究グループ連絡協議会が先進地研修を開催

9月18日、田辺生活研究グループ連絡協議会(高垣せり会長)が、先進地研修を開催した。この研修会は、地域特産物を利用した加工品や新しいレシピの開発、他地域の加工グループとの交流を目的に毎年実施しており、今回は32名が参加して紀の川市の「ハグルマ株式会社」、「桃りゃんせ夢工房」、「ファーマーズマーケット紀ノ川ふうの丘」を訪問した。ハグルマ株式会社では、担当者から会社概要の説明を受けた後、ケチャップの製造工程を見学した。製造ラインが稼働していなかったのが残念であったが、会員からは「県内にケチャップ工場があることを初めて知った」、「ソースやケチャップも積極的に料理に使いたい」との声があり、新しいレシピ作りへの意欲が高まった。桃りゃんせ夢工房では、夢工房会員の指導を受けて桃を使ったお菓子作りを実習し交流を深めた。会員らはきれいにできあがったお菓子に大満足していた。その後、桃りゃんせ夢工房の日浦会長から、会員の高齢化を課題にあげつつも、次のステップを模索し、精力的に体験、加工、食育に取り組んでいる活動内容を聞き、一同感心するとともに、自分たちの会運営について考えるよい機会となった。最後にふうの丘を見学し、帰路についた。

農業水産振興課では、今後、会員が先進地研修で学んだことを実践する際の支援を行っていく。



ソースなど製品を試食(ハグルマ(株))



桃を使ったお菓子作りを実習



じょうようまんじゅう



パウンドケーキ

できあがった桃を使ったお菓子

4. スターチスの植付けが始まる

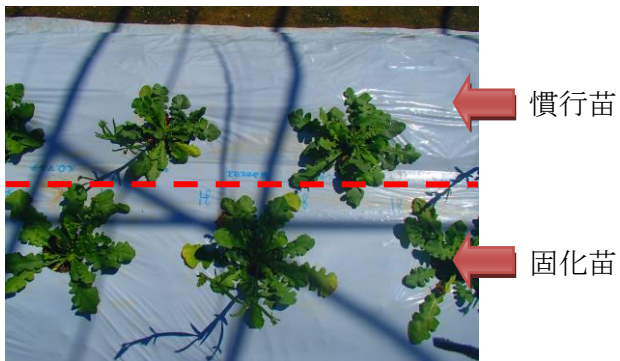
～固化培地苗と常温育苗苗の実証圃を設置～

西牟婁地域では、スターチスが1.8ha（農業水産振興課調べ：H30年3月）栽培されており、11月から翌年5月頃まで長期継続出荷されている。スターチス栽培では、高単価で取引される3月彼岸までの収量確保と種苗費の削減等が課題である。

当課では、初期の切り花品質の向上と収量増加を目的に、近年普及が進みつつある固化培地苗（熱融着性繊維で固めた培地を使った苗）の現地実証圃を田辺市秋津町の鈴木氏の園地に設置している。生育旺盛な‘サンデーバイオレット’は、8月31日に、株張りが劣る‘ラブリーピンク’は、9月6日に定植した。園主の鈴木氏からは、固化培地苗の定植に要する時間は、従来の7.5cmポット苗の5～7割で省力的であるとの意見があった。‘サンデーバイオレット’は自家育苗時に肥料が多かったことから葉が大きく軟弱となり、定植直後は葉やけがみられたが、9月19日時点では、両品種ともに慣行のポット苗と比べて生育に顕著な差は認められていない。

また、種苗費の削減を目的に、暖地園芸センター研究成果である県育成品種の常温育苗苗の現地適応性を確認するため、田辺市芳養町の森本氏の園地にも実証圃を設置している。‘紀州ファインイエロー’と‘紀州ファインパール’の2品種を用いて、9月3日に慣行のクーラー育苗苗と常温育苗苗を定植した。定植直後の9月上旬から高温の日が続いたため、初期の株張りがやや緩慢となったが、9月下旬の生育は順調で常温育苗苗においてもクーラー育苗苗同様に抽苔がみられた。

当課では、今後も引き続きJAと連携して収量、切り花品質の調査を行うとともに、11月頃には現地検討会を実施する予定である。



固化培地区と慣行のポット苗区
注) 9月19日撮影

生育調査

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 三津ノ地域活性化協議会が新規品目のブロッコリー、タカナを播種

新宮市熊野川町三津ノ地域は、高齢化や過疎化が進み、また豪雨による冠水や鳥獣被害も深刻となっており、省力栽培や獣害等の被害を受けにくい新規品目の導入が求められている。

これらの背景をふまえ、三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）、JAみくまの及び農業水産振興課は、9月3日に当地域で現地試験用のブロッコリーとタカナを播種した。

安定した需要があり、生産・出荷に比較的労力がかからないブロッコリーと、地域の特産品「めはり寿司」の材料になるタカナ2品種（在来種、赤葉）をセルトレイ約70枚に播種した。

播種したブロッコリーとタカナは当協議会の育苗ハウスで1カ月ほど育苗し、10月はじめに現地圃場に定植する予定である。

当課では、引き続き当協議会の活動を支援していく。



ブロッコリーの播種



播種したブロッコリーとタカナ

2. 新宮周辺地場産青果物対策協議会がナスの収穫体験を実施

9月17日、新宮周辺地場産青果物対策協議会（小田三郎会長）は、那智勝浦町立宇久井小学校3年生30人を対象に、ナスの収穫と袋詰め体験を実施した。

収穫体験ほ場では、青果物対策協議会の生産部会員である瀧谷弦氏が収穫の際の注意点について説明を行い、その後、児童達はそれぞれ大きくて形の良いナスを選び、1人6本のナスを収穫した。

収穫後、新宮公設市場において、収穫したナスから3本を選び、事前に児童達が作成したポップとともに袋詰めを行い、残り3本は持ち帰った。

袋詰め終了後、質問の時間がとられ、「ナスのおいしい見分け方は？」、「何時くらいから収穫しているの？」などナスや農家の仕事について多くの質問が出され、瀧谷氏と農業水産振興課堺普及指導員が丁寧に回答した。

袋詰めされたナスは、新宮中央青果を通じて同町内の青果店で販売された。

この他、9月18日には那智勝浦町立下里小学校3年生9名を対象に同様の収穫体験を実施した。

当課では、今度も新宮周辺地場産青果物対策協議会の活動を支援していく。



収穫体験



袋詰め体験

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

1. 果樹と野菜の接ぎ木研修を実施

9月12日、技術修得研修（第1班）の実習でウメの接ぎ木を実施した。

接ぎ木ナイフの研ぎ方、穂木を削る際の方法やコツ、台木に接ぐ際の注意点について職員から指導を行いながら研修を行った。

接ぎ木の技術はウメだけではなく、他の果樹でも行われる重要な技術である。研修生からは「今回習ったことを生かし、カンキツの接ぎ木にも取り組んでみたい」といった声も出た。

また、9月13日には社会人課程と技術修得研修（第1班）で野菜の接ぎ木に関する講義と実習を実施した。

土壌病害への耐病性の向上や品質改善などを目的として行われることや、接ぎ木の方法について説明を受けた後、実際に台木となるカボチャにキュウリを接ぐ実習を行った。

就農時には果菜類の栽培を計画している研修生もおり、接ぎ木について多くの関心が寄せられた。



野菜接ぎ木の実習



ウメ台木への接ぎ方の説明

2. 技術修得研修(第1班)が修了

9月13日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第1班）の営農設計発表会及び閉講式を開催した。

営農設計発表会では、5月から9月までの計25日間、講義や実習を通じて学んだことを踏まえ、自らの3年後、5年後を見据えた営農プランを発表し、意見交換を行った。社会人課程の研修生も就農準備の時間を利用して参加した。

発表の中には、「高品質・安全・安心なトマトを作る」ことを目標に掲げ、ミニトマトや中玉トマトの水耕栽培に取り組んでいきたいと計画している研修生もおり、目標に向けて頑張っていこうという思いが伝わってきた。

閉講式では、6名に修了証書が手渡された。修了生が目指す農業経営の実現に邁進されることを祈念する。



営農設計発表会



開講式

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489